

## チャ赤焼病は発生時期によって症状が大きく変わる

### [研究のねらい]

- ・ 赤焼病は厳冬期～早春に発生する細菌病である。本病は厳冬期～早春以外の時期においては典型的な症状を出さず、厳冬期に入ってから突発的に典型症状が多発するために、防除が手遅れになることが多かった。そこで、厳冬期～早春以外の時期における病原菌の生存場所を調査することで、厳冬期以降の発生における伝染源を明らかにする。



### [研究の成果]

- ・ 表層葉、裾葉のいずれの症状でも、細菌病に特有の「水浸状」状態が、病斑周囲に観察される。この「水浸状」は病原細菌が組織内で生存している証拠である。したがって、「水浸状」が観察される茎葉が9月以降にも見られる場合は、病原菌が盛夏期にも死滅せずに生存し、翌年の厳冬期に再発する可能性が高いので、秋以降、早めの予防散布をしておくことが望ましい。(下図の黄色矢印部分が「水浸状」、太陽や電灯など光のある方向に葉を向けて観察すると分かりやすい)

